

ダイバーシティ推進とは



武仲能子

産業技術総合研究所機能化学研究部門
[305-8565] つくば市東1-1-1
主任研究員, 博士(理学).
専門は界面活性剤自己集合構造, ナノ粒子, 液晶.
takenaka.yoshiko@aist.go.jp
sites.google.com/site/takenakayoshikoprofile/
home

最近、ダイバーシティ推進という言葉をよく聞きます。ダイバーシティ(Diversity)を訳すと多様性となり、人種、性別、年齢、性格、学歴、価値観などの違いに拘らず多様性を受け入れ、広く人材を活用することを意味します。昨年1年間、私は所属先である産業技術総合研究所(以下、産総研)のダイバーシティ推進室に併任しており、組織の管理・運営を勉強するとともに、管理部署から研究職を客観的に見る機会を得ました。今回は、この併任経験で感じたことについて、紹介させていただきたいと思います。

私は、産総研で主任研究員として勤めていますが、産総研では、40歳前後で管理関連部署に1年間併任するというキャリアパスがあり、産総研に入所した多くの研究者はこの1年間を研究以外の業務に専従します。私が併任していたダイバーシティ推進室では、おもに以下の五つを柱として活動していました。

- ①女性研究者の積極的採用および女性職員の活躍推進
- ②外国人研究者の採用・受入支援および活躍支援
- ③ワーク・ライフ・バランスの実現
- ④キャリア形成
- ⑤ダイバーシティの総合推進

ダイバーシティ推進とは、多様な人たちが働きやすいような仕組みを整備し、多様な人材を活用して生産性を高めることを目指した取り組みです。しかし、“多様性”を謳いながらも、「ダイバーシティ推進=女性支援、外国人支援」、あるいは、「ダイバーシティ推進=育児支援、介護支援」に特化して捉えられているケースが多いように思います。

かく言う私も、併任するまでは、ダイバーシティ推進というのは特定の人のためにあるものだと思っていました。そして、子供もおらず、ありがたいことに親も元気な私には関係のないものだと思っていました。1年間の業務経験を経て、今ではすべての人にダイバーシティ推進は関係するものだとわかりましたが、併任中にさまざまな人の話を聞くにつけ、未だダイバーシティ推進は、特定の人への支援をするものだという考えが根強いことにも気づきました。

そのように思わせてしまっている原因は、ダイバーシティ推進に携わる側にもあると思われます。たとえ

ば女性活躍に関する取り組みに限って述べると、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)が2025年度までの10年間の時限立法として成立したために、最近では女性活躍に関する助成金なども多く、今社会は女性を活用するという方向を向いて一直線に進んでいるように見えます。そのためか若手研究者には、仕事と育児・介護の両立という方向性のロールモデルばかりが提示され、ダイバーシティに欠けていると感じる時もあります。育児・介護に対する支援が、ダイバーシティ推進の取り組みとして目立ちすぎているのです。

女性が社会進出し仕事と育児・介護を両立していくのも選択肢の一つで、その選択肢を迷わず選べるような仕組みづくりは非常に重要であり、それがまさに女性活躍推進法の下で進められていることです。注意すべきは、育児・介護は女性に限った問題ではないということ、また子供のいない人もいるし、結婚しないという選択をする人もいるということです。さまざまな選択をする人がいることこそがダイバーシティであり、そのように選ばれたすべての選択に同等の価値があり、すべての人の時間に同等の価値があるはずで、2014年に行われた資生堂の制度改革¹⁾は、記憶に新しいところでしょう。一つの価値観に偏りすぎないようにすることが、ダイバーシティの観点から重要だと感じます。

何を選んでもおそらく同じように素晴らしい経験があり、何を選んでもおそらく同じように大変な苦労もあると思います。さまざまな属性の、さまざまな価値観をもつ人が、さまざまなやり方で、輝いていけたらいいなと思います。

1) 20年以上前から育児休業や短時間勤務制度を導入してきた資生堂だが、育児中で時短勤務の美容部員が1,200人に増え、「このままでは回らない」と通常勤務の社員から悲鳴が上がり始めた。充実したはずの制度が、逆に社員の士気後退、売上減少につながるのを食い止めるべく(当時の資生堂執行役員常務の談)、2014年、育児中の社員も選番や土日勤務に入ってもらい、社員全員、シフトやノルマを平等にするという制度改革を実施した。いわゆる“資生堂ショック”と呼ばれているもの。なお2018年1月現在、資生堂の売上高は国内外合計で前年同月比約2割伸び、好調な成長を続けている。